

「鯨の軟骨がガンを治す」

原題「Shark don't get Cancer」

マサチューセッツ工科大学(M.I.T.)やハーバード大学による研究

(CNNやCBSで特別番組)

ガンは血管の成長なしには肥大しない
ハーバード大学教授で世界的に有名なDr. Folkmanのガンに関する理論は学者の間で良く知られている。そしてこの理論は将来ガンに対する大変有効な治療法になるとして期待されてきた。その理論とは

「ガンはその細胞に栄養を取り入れる新しい血管の成長なしには大きくなる。従ってガンの血管の成長を止める物質を発見することが出来れば、ガンを治す非常に有効な治療法になる。」というものである。

鯨軟骨がガンの血管の成長を止める

1983年マサチューセッツ工科大学(M.I.T.)の研究でこの「ガンの血管の成長を止める物質(血管生成抑制物質、Antiangiogenesis inhibitor)」が「鯨の軟骨」にあることが発見された。その後、同研究所他、多くの病院で鯨の軟骨を使いガンの臨床実験が行われた。果たして結果はいずれの場合も「効果は強力な抗ガン剤以上。しかも一切の副作用なし」という驚異的な成果を続々と納めたのである。ガンに対する新しい強力な自然治療法が発見されたのである。

さて、このような話にはわかには信じがたいと考えられても無理はない。しかし読み進めて行く内に、また実際服用した人達の話や耳にする内にこれは真実であることを納得していくことになる。

アメリカ政府(FDA)が研究に出資協力

1993年、アメリカで大きなニュースが流れた。それはアメリカ合衆国政府のFDAがこの「鯨軟骨のガンに対する研究」に出資、協力するということを発表したのである。これまでFDAといえばガンへの自然療法には常に否定的であった。それが一転して「鯨の軟骨」の研究にはアメリカ政府の国費を使ってまで協力すると発表したのである。まさに前代未聞のことである。「鯨の軟骨がガンを治した」というこれまでの多くの研究報告がよほどの権威と信頼性に裏付けられているという証拠であるといえよう。

「鯨」はガンにならない不思議な生き物 地球上最強の生命力

鯨は地球上で最も長く生き続けている生き物である。その歴史は約4億年。恐竜より2億年も古く、人類の出現する800倍も昔から今と変わらない姿で海を泳いでいたのである。また鯨は地球上最強の生命力を持つといわれ、まず病気に感染するということがほとんどない。そればかりか例えば外傷を受けても治るのが非常に早い。そしてそれはガンについても同じで、学者達の間

では「鮫だけはなぜかガンにならない不思議な生き物」だとして知られていた。

あるフロリダの学者は鮫の住む池に強力な発ガン物質を大量に、しかも数年に渡って流し込み続けたほどだった。しかし結果はたった一つのガンも発生させることができなかったのである。

なぜ鮫はガンにならない？

実は鮫の体には他の生物とは全く違う大きな特徴が一つある。それは鮫の骨格である。鮫の骨格に見えるのは実は骨ではなく、全て軟骨なのである。これには頭骸骨から背骨に相当する部分まで体中全てが含まれる。そしてこの軟骨の中には一本の血管もない。軟骨に含まれる「血管生成抑制物質」のためである。鮫がガンにならない秘密はこの鮫の軟骨に秘められていたのである。

各機関の研究報告

1983年マサチューセッツ工科大学のDr.

LangerとDr. Leeにより軟骨にガンの血管の生成を抑える力があることが発見され、これをもとに実験が行われた。軟骨の成分をガンになっているウサギとネズミに注入するというものである。結果は全てのガンの成長が止まってしまった。そして副作用は一切見られなかった。

1985年ハーバード大学出身の外科医Dr.

Prudenにより本格的な臨床報告がなされた。そこではまず死を待つしかない末期患者だけ32人が選ばれた。そして「鮫軟骨」療法が試されたのである。結果は11人が完治！その他全員のガンも縮小という目を見張る効果を示したのである。

1991年メキシコ、ティワナのConteras

Hospital。ここは自然療法で世界的に有名なガンの専門病院である。ここでの「鮫軟骨」の効果はまさに驚異的であった。8人の末期ガン患者に「鮫軟骨」療法を施されたのであるがわずか2カ月間という短期で7人のガンが30-100%縮小という効果を示したのである。その後この病院では現在まで全てのガン患者に必ず「鮫軟骨」療

法が加えられるようになっている。

症例(Conteras Hospital)

* 32才女性（子宮ガン末期）腎臓系を圧迫しているため排尿出来ず毎回カテーテル（管）で排尿させる。まず生存の見込みがない末期状態に軟骨療法が始められた。

7週間後には腫瘍は40%縮小、自分で排尿出来るようになり痛みもほとんど消える。

食欲も増し、体重も増加。11週間後には腫瘍は60%縮小。

* 36才女性（大腸ガン末期）大腸ガンが腹膜に転移しており摘出不可能なガンと診断される。鮫軟骨療法を開始して7週間後、腹部内壁に膿瘍が見られるので摘出手術を行ったが、その時、ガンが80%小さくなっていることを発見。11週間後には腫瘍は見当たらず医師に「奇跡の回復だ」と驚嘆される。

なぜ現存するガンまで消滅したのか？

さてここまで来てひとつの疑問が残る。それは「血管生成抑制物質」の作用でガン腫瘍が増大しないことは説明がつくとしても、ではなぜ既存のガン腫瘍まで消滅したり、転移が防げたりしているのであろうかということである。それは次の事実で説明できる。「ガン腫瘍の血管は正常な血管と異なり非常に壊れやすい。そして常に壊れては新しい血管と入れ替わっている。」従ってガン細胞内の血管が壊れた後、入れ替わる血管が生成されないため既に存在するガン細胞も栄養が得られなくなり消滅する。そして転移した先でも同じ理由で成長出来ず消滅することになる。

なぜこれまで世間に知られなかったか？
実は「鮫の軟骨がガン治療に効果がある」と言う
事実は関係者の間では何年も前から知られていた
のである。ではなぜ我々一般の人々はこの事実を
全く聞かされなかったのだろうか？

それは現代の医薬品業界というシステムに深く関
係している。現在のシステムでは製薬会社が効能
を謳いながら販売するにはFDAに医薬品として
認められなくてはならない。ところが鮫軟骨は自
然食品であり合成する薬品ではないのである。仮
に鮫軟骨を薬品として認知させようとするれば鮫軟
骨から有効物質を抽出し、しかも効果を証明しな
ければならない。それは余りにも困難なことなの
である。実際的には何十年の年月と何億ドルとい
う資金がかかる上、それでも医薬品として認知さ
れるかどうか保証はないということになる。その
ため製品化した製薬会社がなく、医薬品でない以
上、医師にも知らされないし、病院で処方の対象
にもならなかった。

これが一般の人に知られなかったという大きな理
由である。

このように現代のシステムでは医薬品として認知
されていないということが即、効果がないとか安
全ではないことを意味するのではないことを知っ
ておかななくてはならない。

「飲み方」と「飲む量」が非常に大切
飲み方で大切なことは「鮫の軟骨」は食間に飲む
ということである。つまり食事と一緒にとらない
ことが重要である。その理由はガンに効果のある
主成分は特殊な蛋白質であるということが解って
いるからである。食事時にこの蛋白質を摂ると食
事に含まれる他の蛋白質のため胃と一緒に消化さ
れ変質してしまう。だから食間に水やジュースな
どに混ぜて飲む方法が良い。

(注) ミルクや豆乳など蛋白質の多い飲み物では飲まないこと。理由は同じである。

飲む量で大切なことはこれまでの結果からガンの
治療のためには1日60グラムを3-4回に分け

て飲むのが良いと言える。これは相当な量であ
る。少なくとも約3カ月から6カ月この量で続け
る。再発防止や予防のためには1日7-8グラム
を分けて摂ることで効果があるようである。

(注) 現在販売されている多くの製品には非常に少量で
効果があるように書かれているものが多い。これは予防
のために書いてあるか、それであれば無責任な販売戦
略である。少量では治療効果がないことが判明してい
るからである。治療の目的で飲む方々はくれぐれもこのよ
うな表示には迷わないように気をつけていただきたい。

品質

製品の品質の面で大切なことは製造過程で高熱を
加えたり化学処理をしないこと。現段階では抽出
などで手を加えたものより100%鮫軟骨そのも
のが良い。粉末の大きさが大切で200メッシュ
という極端に細かい粉である必要がある。キメの
細かいコーンスターチのような細かさであると思
えば良い。

飲まない方が良い場合

人間の体は成人すると新しい血管を作る必要はほ
とんどなくなる。だから「鮫の軟骨」の血管生成
作用が副作用を起こすことはない。しかし新しい
血管を作る必要がある特殊な場合がある。それ
は、成長期の子供、ボディビルをする人、妊婦、
手術後3カ月内、などでこれらの場合新しい血管
を作る必要がある。このような場合は飲まない方
が良い。

終わりに

最後にはっきりとしておきたいことは、鮫軟骨療
法が現在行われているガン療法に全てとって替わ
るものではないということである。むしろ並行し
て一緒に行われるべきものと考えられる。今の
所、まだ新しすぎて、一般の医師からも知らされ
ない場合が多いと思う。しかしあなたの健康と命
を守るための行動の選択権はあくまでもあなた自
身の権利であることを忘れてはならないと思う。

トピック――関節炎、皮膚炎、腸炎などの炎症にも卓効がある

鮫の軟骨はガンだけでなく含まれるムコ多糖類は免疫力を高め関節炎や皮膚炎、腸炎などの難病にも驚くべき効果を与える。関節炎や腰痛などのためには1日9－10グラムを分けて摂ると効果は1カ月くらいすると現れるのが普通である。